

四日市市立山手中学校 3年 大城 香瑛 「日本の真ん中である三重県の役目」

三重県にはさまざまな伝統、文化がある。三重県には、伝統を愛する温かい人々がいる。私は三重の食べものが好きだ。三重の文化が、伝統が、温かい人が、雰囲気が好きだ。私が大好きな三重の全てが日本に、世界に広がっていけばどれほど幸せだろうと思う。

私は三重県四日市市の阿倉川町という地域に住んでいる。このあたりの地域は大きな括りとして海蔵地区と呼ばれ、この地域内でボランティア活動や行事が行われる。そして、その行事の中に子どもを中心に行われる子ども神輿というものがあった。子ども神輿は、地域の子どもの集まって神輿を担ぎながら住宅街を周るもので毎年たくさんの人が参加していた。地域の人全員が一つになって頑張っているような明るく、温かい雰囲気があって大好きな行事だった。だが、子ども神輿は地域に住む子どもの減少などの理由によって無くなった。準備をする大人の負担も大きいし、神輿を担ぐ子供も減ってしまったのだから、仕方がないことだというのは分かるが、さみしいなと思った。こうして、人と人との関わり、支え合う行事がだんだんと無くなっていくのだろうかと思い、悲しくなった。私の家族や地域の人が続けたいけど続けられないと言っていた。悔しかった。

このようなことが今、日本のいたるところで起きていると思う。少子化、高齢化、過疎化。様々な問題が文化や伝統の継続を困難なものにしている。それでも私は、日本の文化を守りたい。そしてこれは三重県の役目でもあると思う。日本の真ん中にある三重県が文化や伝統を守ることの大切さを、地域で協力することのすばらしさを日本中に伝えるのだ。私は三重の文化が伝統が、温かい人が、雰囲気が好きだ。それと同じくらい日本が大好きだ。だから、人との関わりを大切にする三重の、日本の文化を絶やしたくない。その文化を守る役目を三重が担えたらいいと思う。